



「カセットテープには詳しい内容があって、それも分かりやすく。読む速さもちょうど良いです」と話すのは、井上千里さん＝筒井＝。カセットテープを心待ちにしている井上さんは、届くと何度も繰り返して聞きます。同居している娘さんも、「私が知らない内容も分かっていて、教えてくれるんです」とにっこり。井上さんのことを「誰よりも広報の内容が分かっている」と、娘さんやもみの木は話します。

「カセットテープに物語も入れてほしい」と希望したのも井上さんでした。それを聞いてすぐに取り入れたもみの木。昔から本が好きだった井上さんは「カセットのB面がないのが寂しかった。毎月楽しみにしています」とうれしそうに話します。



少しでも多くの人たちに読んでもらうために

声で広報を届ける
音訳ボランティア もみの木

「あ、え、い、う、え、お、あ、お。か、け…」
部屋中に響き渡る声。この声は、時に白熱した議論の声に、時に笑い声に変わります。今月も、ボランティアグループ「もみの木」の皆さんは、目の不自由な人や文字が見えにくい人に広報を届けるため、カセットテープへの録音作業を行います。この日のために、各自が持ってきた広報は、赤字だらけ。30ページ以上ある広報を、30分のカセットテープにまとめるための、努力の証です。そして、努力はまだまだ続きます。録音前には、通し読みして読む速さや修正箇所を確認。メンバーが熱い議論を交わします。「より分かりやすい情報をできるだけ多く伝えるため」、妥協は許しません。何度でも録り直します。

カセットテープには、広報だけでなく、社協だより、詩や物語なども録音します。楽しみながら聞いてもらうため試行錯誤の毎日。それでも、受け取った人の笑顔や感想がうれしくて、苦になりません。メンバーはいつも和気あいあい。録音後の部屋は、笑い声に包まれます。

もみの木が広報の音訳を始めたのは、平成23年3月。代表の香出美由喜さん＝筒井＝が、他の自治体に音訳ボランティアがあることを聞いたのがきっかけでした。「始めの1年間は操作に慣れず大変でした」と香出さん。録音から配布までに1週間以上かかりました。しかし、メンバーが意見を出し合い協力した結果、今では、録音量が増えたにもかかわらず、広報が手元に届いてから3日以内に届けることを目標にし、ほぼ達成できています。

現在、20人余りにカセットテープを届けているもみの木。「二人でも多くの人に広報を知ってもらいたい。配るところを増やしたい」と香出さんが話す。メンバーも力強くうなずきます。暑い日も寒い日も年中枯れない芯の強い「もみの木」のように、妥協を許さず、これからも多くの人に声を届けていくことでしょう。



代表の香出さん。月1回の録音が待ち遠しいと話します

伝わる思い 受け取った本人に聞く

「聞けるだけでありがたい。毎月楽しみにしています」と話すのは、城戸薫さん＝西古泉＝。広報の音訳を心待ちにしていました。伊予市の人と交流があり、10年以上前から伊予市には広報を音訳するグループがあったそうです。もみの木が活動を始めたのを知って、すぐに応募しました。

「昔はよく出かけていたけれど、今は人の手を借りないといけないから」と話す城戸さん。もみの木をはじめ、川柳会などでもらうカセットテープを楽しみにしています。近所の友人と一緒に聞くこともあるそうです。また、生まれてからずっと西古泉に住んでいる城戸さんですが「(松前え〜とこ)カルタの話聞いて。知らないところも多かった」と話します。カセットテープを通して、新たな気付きも生まれています。



必要な人はいませんか？
声にのせてお届けします



目の不自由な人や文字が見えにくい人に、広報まさきや社協だよりなどが録音されたカセットテープをお届けします。カセットテープには物語や詩も入っていますので、楽しみながら聞くことができます。

希望する人には、無料でお届けします。

まずは下記までご連絡ください。

音訳ボランティア もみの木

代表 香出 美由喜

☎ 984-8833



それは、
ちょっとしたこと。
特別ではありません。

見えない人こそ よくみえる

速水基視子・速水洋 著/生活書院



自分の名前を伝え、相手の名前前で呼びかけること。

誰に向けられた言葉が分かり、安心します。

離れるとき、戻ったときは、必ず声をかけること。
物を勝手に片付けたり、場所を変えたりしないこと。

状況が変わったことに気付かず、不安になります。

テレビや映画などは縁がないと決めつけないこと。

実際、多くの人を楽しんでいます。

自分の視点で考えるのではなく、
相手の立場に立って考えるのが「思いやり」であり、
自分では優しさのつもりであっても、
それを相手に押しつけたのでは
優しさとは言えない。

※一部抜粋

視覚障がいのある著者が、自身の経験などから書いている本です。

ヘルパーステーション みどり

ヘルパーとして、普段から気をつけていること。
「安心、安全、安楽」

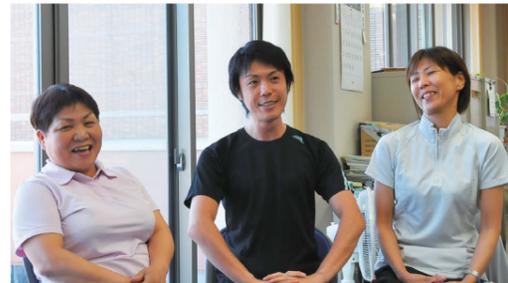
これに加えて、
視覚障がいのある人に対し特に気をつけているのは、
信頼関係づくりです。

皆さん敏感に察知する能力があるので、
周りの状況を、できるだけ細かく、
伝えるようにしています。

そして、段差の少ない道を通り、
車道側はヘルパーが歩いて安全を守ります。

また、関わる中で感じるのは、情報量の少なさ。
情報を得る手段が少なく、相談までにならない
ことも多いのではないかと思います。

そのような人に、どう働きかけていくか？
ヘルパーだけでは厳しいのが現状です。
多くの人で関わる必要があると思います。



ヘルパーステーションみどり(松前町社会福祉協議
会内)の皆さん。視覚障がいを持っている人のヘル
パー支援も行っています。

6月末現在、町内で視覚障がい
の手帳を持っているのは、108人。
そのうち、公的サービスを利用し
ている人は、ほんの一握りです。その
人たちは、利用できるものを知ら
ないという人も多いのかもしれない
せん。また、加齢や病気で見えにく
くなっている人もたくさんいます。
その中で私たちができること。
難しく考える必要はありません。
利用できるものを教えてあげてく
ださい。「押しつける」や「させる」
のではなく、もみの木やみどりのよ
うに相手の立場に立ち、思いやり
を持って寄り添ってください。そう
することで、今までお互いが知らな
かったことが分かり、いろいろな「で
きない」が「できる」に変わってい
くはずですよ。

今回は「見る」をテーマに考えま
した。しかし、見るに限らず誰しも
「できない」「こと」はあると思います。
そのときに、利用できるものはない
か知ろうとすること、そして、一人
で抱え込まずに周りと助け合っ
て伝えていくこと。それらが「でき
る」への鍵になります。
まず、あなたの周りをみてくだ
さい。身近な地域から、助け合っ
ていくことが大切です。私も、あなた
も、「一緒に」できるを増やしてい
きましょう。



私も、
あなたも、
「できる」に



もみの木の活動から見えるもの

最近、「自助」や「共助」という
言葉を耳にしませんか？ 東日本
大震災を経て、自分の安全は自分
で守る「自助」、自分たちの住んで
いる地域は自分たちで守る「共助」
の大切さが見直されています。

もみの木の活動は、広報や社協
だよりを届けることだから、自助
や共助とは関係ないと思うかもしれ
ません。でも、もみの木の活動に
より、今まで「見ることができず
に、知ることができなかった」人が
「耳で聞くことで情報が見えるよ
うになり、知ることができるよう
になっています。もみの木自身も、
カセットテープを直接届けて触れ
合うことで、その人たちから新た
な発見や出会いをもらっています。
「共助」は共に助けると書きま
す。お互いが思い合い、一方の「で
きない」を補っていくためにも、ど
うすれば「できる」ようになるか
を知っておく必要があります。自
助についても、自分が利用できる
制度を知っておくことが大切で
す。利用することで、できなかった
ことができるようになるかもしれ
ません。
自助と共助の第一歩。知るこ
とから始めましょう。

利用しませんか？ 日常生活用具／補装具給付制度

身体障がい者の手帳を持つ目の不自由な人が利用できる
制度です。費用負担は所得の状況によって変わり、それぞれ
の種目に基準額もあります。詳しくはお問い合わせください。

●日常生活用具給付制度(視覚障がいの人が対象のもののみ抜粋)

種目	対象者
電磁調理器	視覚障がいの手帳2級以上 (単独世帯と準ずる世帯)
盲人用体重計/体温計	〃
盲人用時計	視覚障がいの手帳2級以上
拡大読書器	視覚障がいの手帳所持者
活字文書読み上げ装置	視覚障がいの手帳2級以上
ポータブルレコーダー	〃

情報・通信支援装置	視覚障がいの手帳所持者
点字図書	〃
点字器	〃
点字ディスプレイ	視覚と聴覚障がいの手帳2級以上
点字タイプライター	視覚障がいの手帳2級以上 (就労(見込み含む)・就学中の人)
歩行時間延長信号機用 小型送信機	視覚障がいの手帳2級以上

●補装具給付制度(視覚障がいの人が対象のもののみ抜粋) 盲人安全つえ(白杖)、矯正/遮光眼鏡、義眼など

*他にも利用できる制度があります。その他、障がいに関しては…
☎福祉課障がい福祉係 ☎985-4112

窓口には、愛顔のえひめ(県広報紙)のCDや点字も置いてます

